

# 釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の  
横顔

◇ 中 ◇

線の鋭さ持ち味

品の持ち味。漢字をかな  
一音に読ませる「変体が  
織細で優美なかな文字  
の中に、キレのある  
線の鋭さが上林さんの作

書道

上林 佳子さん(51)

釧路市文苑4

音別町に生まれ、小学  
書道歴は25年。祖父の弟  
で同郷の故小野田淡翠さ  
んに師事し、かな文字一  
筋に日々鍛錬を重ねてい  
る。



師事した故・小野田さんと大賞作品前に立つ上林さん(左)



上林佳子さん

院での大賞など、受賞は  
数多い。現在は正筆会と  
書究院の理事と釧路書道  
連盟展審査会員も務めて  
いる。

大賞受賞作品は「頬に  
つたふなみだのごはず一  
握の砂を示しし人を忘れ  
ず」など石川啄木の短歌

## かな文字一筋に日々鍛錬

「海外でも個展」と夢膨らむ

3首を書いた。「(啄木  
は)憂いを秘めている作  
品が多く、情景や気持ち  
が思い浮かぶ」と、題材

に選ぶことが多い。好き  
な歌や書く紙を選び、使  
う文字、構成を考える課  
程は「苦しみでもあり、  
楽しみでもある」という。  
「(紙の)余白は私にと  
って『要白』。歌を理解  
して、作品を何度も書き  
込んでいくのが一番厳し  
い」と語る。

### 厳しい自己評価

数々の受賞を「認めら  
れてうれしい」という反  
面「いつも反省点があり、  
満足することはない」と  
厳しく自己評価。「字  
は人なり」。書を通じて  
自分を高めていきたい」と  
次回作への気持ちを高  
めている。

書道教室では、堪能な  
英語を生かして外国人に  
も指導。書道の楽しさは  
世界共通と笑顔で話す。

「かな文字主体の書道教  
室や、海外で個展を開き  
たい」と、夢は膨らんで  
いる。  
(河辺由記子)